

おおもり

平成31年2月7日

東根市立大森小学校
学校だより80号

「心を一つに」・・・感謝の思いが伝えられる感動の合唱を！

先日、神町地区の雪祭り恒例「雪んこ音楽祭」が神町小学校で開催されました。これは、例年4年生が市の合同音楽発表会で披露した合唱・合奏にオリジナル企画を加えて参加しているものです。今年はインフルエンザの流行期と重なってしまったため、感染拡大防止の観点から、「ビデオメッセージという形で参加」してきました。

【発表内容】合唱「未知という名の船に乗り」「大切なもの」、演舞と歌「花笠音頭」（演舞：尾花沢上町



流)

「心を一つに、自分たちも聞いている人たちも笑顔になれる合唱をしよう」というテーマで4年生110名が、ハーモニーづくりに取り組んできた成果が十分に伝わる素晴らしいビデオメッセージでした。

ハーモニーを奏でる

ギリシャ語が語源で、日本語では「一致」や「調和」の意味。合唱や合奏では自分の持てる力を精一杯出すのは当然ですが、仲間のいろいろな声や音と合わせることに力も注ぐことをしなければなりません。その感じ取った仲間の声や音と「合わせよう」とする気持ちがお互いに生まれ、合唱や合奏ができあがっていきます。

ハーモニーを創り上げる中での成長

子どもたちは、日々の練習、緊張感の中で本番の演奏をやりとげることとおして、学級や学年の仲間と、心を合わせることができていきます。リズムや音の強弱、音色を合わせて素晴らしいハーモニーを奏でる一つの音楽を作り上げるためには、心を一つに合わせなければできません。子どもたちの合唱や合奏の練習を聴いていると、いい音楽を作り上げるために懸命に心と音を合わせようとしている姿が見られます。見えないものを感じ取る力や心を合わせる力を培ってくれるのは、何も音楽に限ったことではありません。このような力は、日常生活でいろいろな人と出会い、いろいろな出来事を経験する中でも培われ、調和の大切さ、他への気使いを学び、社会性を身につけていきます。

これからの大森小・・・「めざす学校像」の一つに「笑顔と歌声のあふれる学校」

これからも「心一つに」の思いを大切に、全校生723名の歌声が響く学校をめざして、職員も心一つにして指導にあたり、歌うことの楽しさを十分に実感させていきたいと思えます。

いよいよ、来月3月18日には第8回の卒業証書授与式も予定されています。卒業生、そして在校生も、

お互いに感謝の思いが伝えられる感動の合唱ができるように努力していきたいと思います。

(校長 土 屋 常 義)